

令和2年度大学院地球社会統合科学府

修士課程（夏季）入学試験

入学試験問題

経済学

注意事項

1. 問題は「はじめ」の合図があるまで開けないこと。
2. 試験開始後、全ての解答用紙に受験番号等を明記すること。
3. 解答用紙は、必ず全部提出すること。
4. 問題冊子は持ち帰ってよい。
5. 指定の解答用紙を用いること。

次の（問題 1）から（問題 4）までの中から 2 つを選択し、問題番号を明記した上で解答しなさい。ただし、問題ごとに異なる解答用紙を用いること。

（各問題 100 点、合計 200 点満点）

（問題 1）

環境経済学では「最適汚染排出量」という考えがある。「最適汚染排出量」とはどのように定義されるか、「限界外部費用」、「限界汚染排出削減費用」、「社会的費用」という用語を用いて説明し（図を用いて説明することが望ましい）、その上で、なぜ「最適汚染排出量」以上に汚染を削減することが望ましくないのかについて説明しなさい。また「最適汚染排出量」の水準で汚染排出量をコントロールすることは現実には容易ではないが、あなたが効果があると考えられる政策的手段について論じなさい。

（問題 2）

居留地貿易が行なわれていた明治期の日本では、直貿易を求める声が高まっていった。居留地貿易と直貿易について、それぞれの貿易メカニズムの相違点について説明しなさい。その上で、日本国内で居留地貿易から直貿易への転換を求める声が高まっていた理由について、自らの考えを述べなさい。

（問題 3）

第一次世界大戦を契機として、日本経済は飛躍的に成長したといわれる。なぜ、第一次世界大戦が日本経済の飛躍的な成長の契機になったのか、20 世紀初頭の世界経済の状況も踏まえつつ説明しなさい。その上で、第一次世界大戦の時期に、どのように日本経済が飛躍的に成長したのかについて、具体的に述べなさい。

（問題 4）

気候変動対策として各国が国内対策を推進する以外に、国際的な環境（炭素）税や（炭素）排出権取引などの対策の有効性が議論されている。環境（炭素）税や（炭素）排出権取引を国際間で適用することのメリットはどのような点にあると考えられるか、説明しなさい。その上で、それぞれのデメリットは何か、また現実に導入しようとした場合に直面する困難としてどのような事態が考えられるか、自らの見解を述べなさい。